

病理診断科がおすすめする初期臨床研修プラン

<診療科説明>

病理診断科を志望する研修医には、初期臨床研修中に内科、救急、外科などの医師としての礎となる分野をしっかりと学んでいただきたいです。病理医として働き始めると、実際に患者さんを診察したり、治療したりすることはなくなり、臓器やご遺体での対面のみになります。初期臨床研修は臨床医としての経験を得る貴重な期間になります。そのうえで自由選択期間に本学病理診断科を選択していただき、外科病理診断業務のみならず、剖検業務の補助などを経験し、専攻医として本格的に病理診断科研修を行う前に余裕をもって組織学や人体病理学の基礎を学んでいただきたいと思います。

1. 研修病院の選択

A・Bコース

病理医を目指す研修医はしっかりと臨床を学び、そのうえで病理診断科の研修を選択してください。後期研修の4月からスムーズに研修を行うために、2年次の最終12週は病理診断科を選択することをおすすめします。一般的には、内科・外科等の研修を終えてから病理研修を始める方が臨床的な知識のもとに病理診断を行うことができます。Aコースの場合、2年次に病理研修を選択するためには、常勤病理医がいる研修病院を選択する必要があります。下記に示す研修病院では、常勤病理医のもとで豊富な症例を経験することが可能です。

Cコース

病理医を目指す研修医はしっかりと臨床を学び、そのうえで病理診断科の研修を選択してください。2年次には本学病理診断科で病理医としての基礎を身につけてください。後期研修の4月からスムーズに研修を行うために、2年次の最終12週は病理診断科を選択することをおすすめします。

病理診断科の教育関連施設

協力型研修病院 (たすきがけ病院)	N T T東日本札幌病院 市立釧路総合病院	帯広厚生病院	小樽市立病院
----------------------	--------------------------	--------	--------

2. 病理診断医になるために研修が望ましい診療科

必修となっている診療科以外にも、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、形成外科、脳神経外科など病理診断が関わる診療科は多数あります。また、通常業務では腫瘍性疾患や炎症性疾患を主に扱いますが、病理解剖においては循環器疾患や中枢神経疾患など、普段の診断業務では扱うことの少ない臓器や全身性疾患が主たる病態となることも多く、多方面の知識が必要です。

3. コース選択

Aコース：1年次に臨床の必修研修をしっかりと行い2年次の病理診断研修に備える（たすきがけ研修）

1年次 大学病院												
4週	8週	12週	16週	20週	24週	28週	32週	36週	40週	44週	48週	52週
必修 内科						必修 外科	必修 産婦	必修 小児	必修 精神	自由選択 内科系・外科系		必修 救急 ICU
2年次 協力型研修病院												
4週	8週	12週	16週	20週	24週	28週	32週	36週	40週	44週	48週	52週
必修 救急	必修 地域研修	自由選択 内科系・外科系・病理診断科						自由選択 病理診断科				

Bコース：1年次に臨床の必修研修をしっかりと行い2年次の病理診断科研修に備える（たすきがけ研修）

1年次 協力型研修病院												
4週	8週	12週	16週	20週	24週	28週	32週	36週	40週	44週	48週	52週
必修 内科						必修 外科	自由選択 外科	必修 小児	必修 産婦	必修 精神	必修 救急	
2年次 大学病院												
4週	8週	12週	16週	20週	24週	28週	32週	36週	40週	44週	48週	52週
必修 救急 ICU	必修 地域研修	自由選択 内科系・外科系・病理診断科						自由選択 病理診断科				

Cコース：1年次に臨床の必修研修をしっかりと行い2年次の病理診断科研修に備える（大学研修）

1年次 大学病院												
4週	8週	12週	16週	20週	24週	28週	32週	36週	40週	44週	48週	52週
必修 内科						必修 救急・ICU		必修 外科	必修 小児	必修 産婦	必修 精神	
2年次 大学病院												
4週	8週	12週	16週	20週	24週	28週	32週	36週	40週	44週	48週	52週
必修 地域研修	自由選択 内科系・外科系・病理診断科						自由選択 病理診断科					